

耐震用止水板 BGパッキン

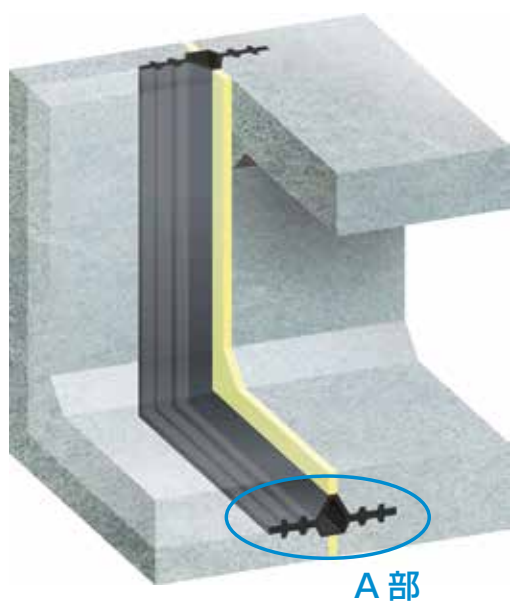
樋門・翼壁接続部用

はじめに

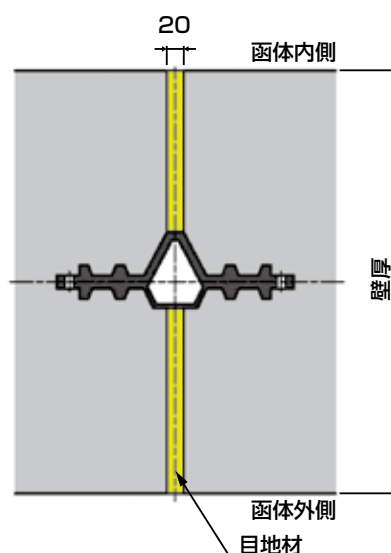
柔構造樋門の設計において、翼壁は原則として樋門本体と分離させる必要があり、その接続部には可撓継手または可撓性のある止水板が使用されています。

この度、耐震用止水板としてBGパッキンを開発しました。

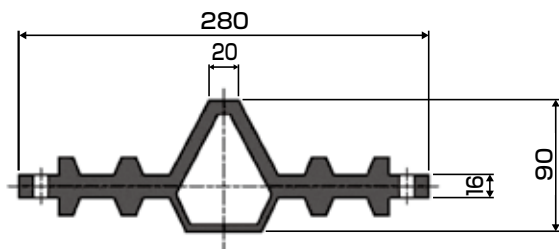
構造



A部詳細図



形状



性能

耐水圧 (MPa)	変位量 (mm)	最小壁厚 (mm)
0.15	開き 60	300
	沈下 100	

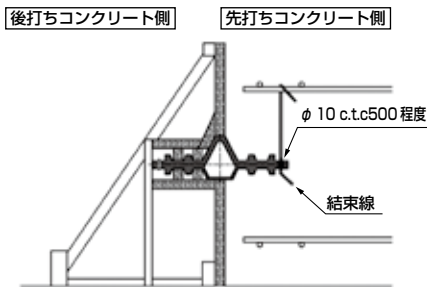
特徴

1. 接続部に変位差が生じても水密性を確保します。
2. 中空部が変形することにより、構造物間の開き及び沈下に追従します。
3. ゴム材料には耐久性に優れたクロロブレン系合成ゴムを使用しています。

耐震用止水板 BGパッキン

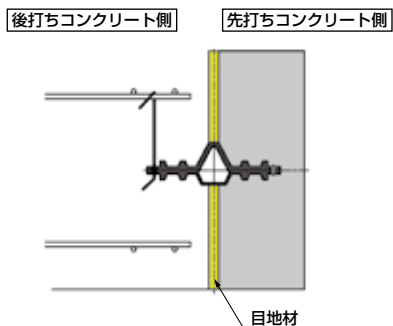
施工手順

1 BGパッキンの設置



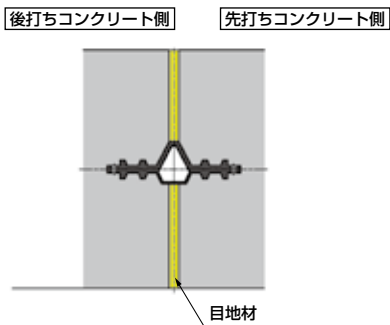
先打ちコンクリートの型枠組みに当たり、後打ちコンクリート側からBGパッキンを型枠材を用いて、壁厚の中心に位置するよう固定します。先行側は鉄筋を利用し番線で固定しますが、ゴムは引張らないよう注意して下さい。またゴムに直接釘打ちはしないで下さい。

2 先打ちコンクリートの打設及び、目地材の固定



先打ちコンクリートを打設します。コンクリート養生後、型枠材を取り外し、先打ちコンクリート面に目地材を釘などを用いて固定します。先打ちコンクリートが控えて打設された場合不足分はモルタルや目地材で埋め、逆に増して打設された場合は増厚分を研って目地材を定位置に垂直に設けるようにして下さい。

3 後打ちコンクリートの打設

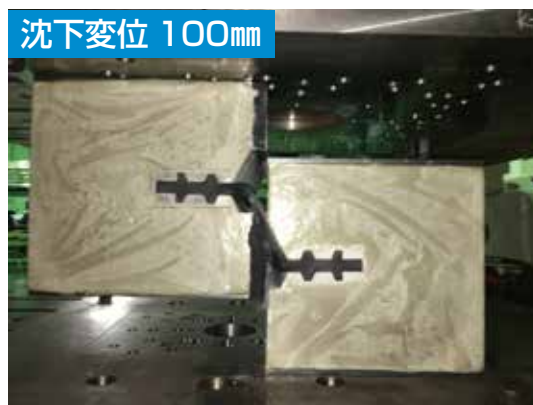


後打ちコンクリートを打設し、施工完了です。

ゴム材料の物理的性質

項目	単位	規格値	試験値	試験方法	
硬さ	-	A60 ± 5	A61	硬さ試験 JIS K 6253	
伸び	%	350 以上	480	引張試験 JIS K 6251	
引張強さ	N/mm ²	16 以上	16.8	引張試験 JIS K 6251	
老化試験	硬さ変化	-	0~+7	+2	空気加熱老化試験 JIS K 6257 (70℃× 96h)
	伸び変化率	%	-30以上	-6	
	引張強さ変化率	%	-20以上	-10	
圧縮永久ひずみ率	%	30 以下	15	圧縮永久ひずみ試験 JIS K 6262 (70℃× 24h 25% 圧縮)	
耐水性 (質量変化率)	%	5 以下	2.0	浸せき試験 JIS K 6258 (23℃× 168h)	

試験状況



東京ファブリック工業

支店

札幌 盛岡 仙台 宇都宮 新潟 東京 横浜 名古屋
金沢 京都 大阪 高松 広島 福岡 鹿児島



お問い合わせ先

本店

〒163-0429 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル29階
URL : <https://www.tokyo-fabric.co.jp/>